【高等学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校（全日制）

1　前年度 評価結果の概要	・『「確かな学力」を目指した授業力の向上』、『「進路実現」を目指した自己分析力の育成』、『「相互理解」を目指した寛容な心、思いやりの心の醸成』の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努めた。こうした取組は、一朝一夕に実現するものではなく、本校の伝統と本校職員による日々の粘り強い指導によるものである。また、現状に甘んじることなく、学校活性化のための方策についての議論を重ねることができた。 ・次年度は、北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身を分析することで各々の自己有用感・自己肯定感を高揚させる取組を進めていく。併せて、新学習指導要領に適応した教育課程やキャリア教育の充実などの方策を実践に移す等、本校のさらなるパワーアップを目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えていく必要がある。
2　学校教育目標	自主・自立を重んじ、知性を高め、人格の完成を目指す。 ①心身ともにバランスのとれた能力の伸長を図り、個性を磨く。 ②自由と責任を両立させて、明るく思いやりのある人間を育成する。 ③社会の変化に対応できる柔軟性、創造性、国際性を育む。
3　本年度の重点目標	「確かな学力」を目指した授業力の向上 「進路実現」を目指した自己分析力の育成 「相互理解」を目指した寛容な心、思いやりの心の醸成

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○授業のさまざまな場面で、主体的・計画的に学習活動に取り組む姿勢を養う。	○学期末に学習活動に関する振り返りを行なわせる。 ○６月・12月に進路検討会を実施する。	・年度当初に学習指導に関する研修会を実施する。 ・学期末にポートフォリオを作成する。 ・進路検討会では、各担任や各教科担当からの意見を通して生徒の長所や課題を多面的に把握し、進路指導のポイントを探る。	A	・職員対象の学習指導の会を1回(4月)、生徒対象の講演会を2回(共通テスト対策(9月)、二次試験対策(1月))開催することで、学習や入試に対する意識の喚起を図ることができた。 ・全学年とも進路検討会を2回開催し、職員間で情報を共有することができた。 ・各学年及び各教科で模擬試験の結果を踏まえ、小問ごとの正解率を調べ、思考力系、知識系の理解度を詳しく分析することができた。 ・進路指導部から「進路だより」の発行を通して、主体的に学ぶ意欲の喚起や物事を客観的に捉える力の涵養や知的好奇心の醸成を行った。	A	・各教科担当および部顧問からまんべんなく意見を取っていることを評価する。 ・学習活動及び部活動の振り返りや外部顧問による学習指導の会の開催などはよいと思うので、ぜひ継続してほしい。 ・目標を持ち、目標に向けて頑張ってほしい。	進路指導部
	◎他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	○各学期に1回以上、総合的な探究の時間をはじめ、全教科において、協働的な活動の機会を設定する。	・学期末にアンケート調査を実施し、協働的な活動の機会の効果を理解させる。	A	・総合的な探究の時間で、身近な問題や社会が抱える課題について話し合わせることで考察させたり、様々な形式でのプレゼンテーションを10月と1月に行うなど、協働的な取組をすることを通して深く理解させることができた。 ・小論文講演会を開催し、表現の方法等を身につけさせることができた。	A	・協働的な喜びが得られる活動は社会でも役に立つので、次年度も新たな試みを期待する。 ・パワーポイント活用で、表現力の向上につながると思う。	進路指導部
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育む教育活動	○人権・同和教育指導計画とHR活動計画に基づいて人権・同和教育の授業・研修会を実施する	・学校生活アンケート（2回実施）をもとに生徒の意見等を聞く。 ・スクールカウンセラーにより講話を行う。 ・生徒や保護者の円滑なカウンセリング利用・人権同和講演会の実施 ・人権同和教育に関する職員研修の実施 ・人権同和教育に関するLHRの実施 ・人権同和のLHRに関する担任の事前研修の実施 ・地歴公民、その他の教科における人権教育の実施	B	・6月、11月の学校生活アンケートを通じて出てきた問題に対して速やかに対応した。 ・芸術科１年生の講演会をスクールカウンセラーにして頂いたことにより、2学期以降の芸術科生徒への教育相談（面談）に役立った。 ・5月の連休前に行う心理検査を4月当初に行い、その分析結果をもとに担任から気になる生徒への声かけや、養護教諭や部顧問を含む各先生方などとの情報交換が必要である。 ・人権同和教育HRを通して、いじめや差別のない高校生活を送るために、「インターネットと人権」や「全国高等学校統一用紙の精神を学ぶ」などをテーマとして学習し、人権意識を高めることができた。 ・人権同和教育講演会を通して、異文化理解や多文化共生について学び、自分と異なる文化や宗教、あるいは異なる考え方に対して寛容であることの大切さを学んだ。	B	・次年度に開催されるSOSの出し方指導に期待する。 ・時代の流れに合った講演会などを実施している。 ・カウンセラーからのフォローは継続していってほしい。 ・人権は人として生まれたものの権利で保障されるもので人権教育の実施も必要なものである。	教育相談部 総務部（人権・同和教育）
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ」防止等について組織的に対応ができていると回答した教職員の割合が70％以上 ○生徒指導、教育相談、担任、顧問と連携して早期発見を目指す ○アンケート後１週間以内に集計の完成と情報の共有を行う	・年3回のアンケート調査の実施 ・覚知の際に各分掌で協力し早期の対応を行う。 ・生徒総会においていじめ撲滅宣言を行い、生徒間での意識の共有を図る。	A	・教職員の90％が「いじめ」防止等について組織的に対応できていると回答している。 ・年2回のアンケート調査では学級担任および学年の協力で迅速かつ細かな調査ができた。 ・学校ホームページや教育相談便りを利用して生徒や、保護者に向けていじめ防止の啓発活動を行った。 ・9月に人権に関するLHRを全クラスで行った。10月には人権オンライン講演会を開催し、いじめの未然防止についての内容も話してもらった。	A	・スクールカウンセラーとの連携を図り、最善策を検討していただいている。 ・評議会でも教育現場の真剣さが、お話を通して感じとれた。	生徒指導部 （学年主任）
	○登下校時の自転車マナーの向上	○自転車事故ゼロを目指す ○登下校時の交通マナーアップの向上	・年度当初の自転車点検の実施 ・交通安全講演会の実施 ・全職員および生徒会と連携し校門周辺の指導を行う。	B	・1，2学期に2回、全職員で学校周辺の交通マナー指導を行った。昨年に比べ近隣から苦情件数も減少した。 ・交通安全、自転車事故を防ぐシュミレーション体験などを開催したことにより道路交通法の改正点や自転車通行帯についての知識を知ることができた。	B	・交通指導は生徒たちの意識がうすれないように定期的にこれからも行っていただきたい。 ・マナーの向上というのは、所有する自転車を大切にしているかとも考えがつながる。所有する自転車を大切にというのも伝えてほしい。	生徒指導部
	○知性と豊かな心を涵養し教養を深める	○貸出冊数目標を一人あたり3冊とする。（昨年度は2．2冊） ○図書委員の活動実務を充実させる。	・図書館フェスタなどへの行事を昨年より早く実施するとともに通常案内・宣伝も積極的に行う。 ・カウンター当番などの通常業務で日誌をつけ、書店での選書の回数を増やす。また、先生方に図書紹介の依頼、POP作りなど新しいことに取り組む。	B	・貸出冊数一人当たり3冊の目標は遠く及ばない結果となった（一人当たり1.6冊）。学習以外での来館者が極めて少なかった。昨年比で3年間の上位者、年間上位者ともに冊数がほぼ半減している。昨年以上に新着案内等定期的に配布、掲示しており、次年度への大きな課題を残すことになった。 ・図書委員の活動については、計画していたことはほぼ実施できた。来年度は今年度の取り組みに加えて、生徒の主体的な活動によりつながるようにしていきたい。	B	・豊かな表現力を養う為にも、これからも取り組んでいただきたい。 ・図書は思春期には、大切なものなので、地味でもよいので、フェスタ等の試みを大切にしていただきたい。 ・読書は教科に限らず良いので、進んで読んでほしい。また、新聞を読む習慣もつけてほしい。	図書
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95％以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡	B	・感染症予防のための免疫力、抵抗力を上げるためにも食事の摂り方は重要であることを保健だよりで周知した。 ・朝食欠食している保健室来室者には継続的に指導を行い、朝食摂取の習慣の定着を図った。	A	・アンケートの結果より食事を大切にしている傾向がみられるのはよいことです。引き続き、朝食抜きで学校に来る生徒がないよう啓発につとめていただきたい。 ・食の重要性を、家庭・学校の両方から取り組んでいくためにも声掛けお願いします。	保健・厚生部
	○心身の健康問題に対する自己管理能力の育成	○健康診断（内科検診）後の受診率を前年度より5％向上させる ○睡眠時間を十分に取れていると考える生徒80％以上	・睡眠に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒への全体指導と個別指導	B	・睡眠不足を理由とする保健室来室者は激減した。来室者にはさらなる個別指導を行うことで意識と行動の変容を促した。しかし、睡眠不足による授業や部活動への影響はまだまだ大きいと思われる。	B	・睡眠を大事としている生徒が多くほっとした。 ・睡眠の大切さは、家庭でも取り組んでいく一番の課題であると思いますので、今後も意識調査など行ってほしい。	保健・厚生部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 ・部活動休養日の設定	B	・定時退勤日については、平常日は十分な実施とはならなかったが、考査期間中や長期休業中においては、おおむね実施できた。 ・年休取得や振休取得について折に触れアナウンスし、特に長期休業中を中心に、取得しやすい雰囲気を醸成できた。 ・部活動の休養日については、概ね目標を達成することができた。	A	・教職の多忙改善は、教育委員会も含めた組織改革であると思う。引き続き働く側への心配りにも尽力していただきたい。 ・定時退勤日や学校閉庁日を設定されたことを評価します。	教頭
	○教職員の連携促進	○学校運営を組織的に行い、業務の効率化を図ることによって、個人負担を軽減する。	・現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する。 ・業務の進捗状況の共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。	B	・他の分掌と連携しながら行事の精選を行うことができた。 ・カリキュラム委員会など、教員間の協議の場で活発な意見を得ることができ、それほど大きな負担がない形での新学習指導要領への移行が可能になると考えられる。	A	・現状に合った取組を考えられているので、今後も引き続き業務の効率化を図っていただき、時間的な余裕を生んでいただきたいと思います。 ・教職員の縦の連携もだが、同世代の教師が悩みを共有できる,発言がしやすい場所も必要だと思う。	教務部

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○（独自評価項目・任意）	○（学校独自重点取組・任意）	○（学校独自重点取組・任意）	・		・		・	
○	○	○	・		・		・	
○	○	○	・		・		・	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について議論を重ねることができた。 ・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。 ・新学習指導要領に適応した評価表を作成し、また、探究活動の充実を図るなどキャリア教育の充実を図った。 ・本校のさらなるパワーアップを目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整える。